

めざせ世界遺産登録

あなたも参加団体で活動しませんか？

世界遺産への意識を高める

鎌倉ロータリークラブ

ロータリーとは、1905年アメリカに始まった世界最初の奉仕クラブ組織です。世界各地に2万を超えるクラブがあり、さまざまな職業に携わる120万人を超えるロータリアンが職業奉仕、社会奉仕そして国際親善を旨として活動しています。鎌倉ロータリークラブはその中のひとつのクラブで、昨年で創立50周年を迎えました。

1週間に1回の例会では60名余りの会員が集い、勉強会やそれぞれの現況報告などを行って、会員相互の親睦も図っています。鎌倉クラブの奉仕活動としては、昨年の震災時に復興資金援助はもとより、被災地の子供たちにサブレーを贈り、またトラックを贈呈しました。そのほか景観を守るために植樹、海浜清掃などにも力を入れています。

世界遺産登録のための意識を高めるためには、年に1~2回有識者による卓話をお願ひして、基本知識から最新の情報まで得るようにしているとのこと。これから

も活動の中で、世界遺産登録を応援していく予定だそうです。



活動風景

古都鎌倉の世界遺産登録って

なに？

第23回 円覚寺はどんなお寺？

円覚寺は、弘安五年（一二八二）に鎌倉幕府第八代執権時宗が中国（南宋）の僧無学祖元を開山として、山ノ内の地に建立した禅宗寺院です。時宗は祖元を師として禅宗に深く帰依し、モンゴル襲来時の犠牲者を敵味方の区別なく弔うため、円覚寺を建立したとされます。その後も鎌倉幕府や鎌倉府などの武家政権からの手厚い保護を受け、東国における禅宗の一一大拠点となっていました。

円覚寺の寺地は、山稜に入り込んでいる谷戸を階段状に造成し、そこに伽藍が整備されています。度重なる火災や地震によって、創建当初の建物は失われていますが、推定される「円覚寺境内絵図」（重要文化財）によつて、最盛期の円覚寺の姿を知ることができます。

これによると、当時の伽藍は三門（山門）・仏殿・法堂・方丈といつた主な建物が直線上に並び、その左右対称に堂舎が配されるという、中國禅宗寺院の伽藍配置にならつたものだったことがわかります。

この禅宗様伽藍配置は現在も良く残されており、鎌倉時代以来の禅宗の伝統を今に伝えていく点で大変重要です。

「武家の古都・鎌倉新聞」でPR！

神奈川新聞社



鎌倉幕府の盛衰をシリーズで紹介している「武家の古都・鎌倉新聞」

神奈川で唯一の地方紙・神奈川新聞。読者の関心が高い鎌倉の世界遺産登録に関する報道を充実させる目的で昨年8月、参加団体に仲間入りしました。

貴重な歴史的遺産を後世に継承していくためには、遺産の価値を知つてもらう必要があります。その一助として、今年1月から「武家の古都・鎌倉新聞」を編集しています。

毎月第2金曜日、紙面1ページを使い、全12回シリーズで鎌倉幕府の誕生から滅亡までを紹介する企画特集です。「武家の古都・鎌倉」の意義や歴史を広く知つてもらうため、鎌倉市内の公立中学生には掲載紙を無償提供しています。

これまでに頼朝の挙兵や源平合戦、奥州合戦、頼朝死去などを取り上げてきました。識者が鎌倉への思いを語るコーナー「私と鎌倉」も設け、東大名誉教授の養老孟司さんや作家の三木卓さんらが登場しました。

このほかにも、神奈川新聞本紙では世界遺産登録にまつわる話題を数多く取り上げています。皆様も一度本紙を広げてみませんか。

武家の古都・鎌倉新聞のお問合せは湘南総局 0463-27-1400まで。